Tokyo Kasei University

大塚 有里　OTSUKA Yuri

家政学部 服飾美術学科　教授

19 世紀の手編みニットの研究と作品制作

キーワード　服飾文化，服飾工芸，手芸，手芸技法，編物雛形，編物，刺繍，レース，レプリカ制作

研究内容

編物をはじめとする各種服飾工芸（手芸）の技術，素材，用具の変遷，模様の意味などに興味を持ち，研究と制作を行っています．過去に行った「19 世紀ヨーロッパの子ども服のレプリカ制作」では，棒針編み（Knitting）かぎ針編み（Crochet），アフガン編み（Tunisian Crochet）の手編み 3 大技法の編地が施されており，当時の技術を推測する手掛かりを得ました．再現した編目を JIS 編目記号（日本産業規格）に置き換えたり，とじる，接ぐといったパーツをまとめる方法，編み進める方向，立ち上がりの目の考え方，裏地のつけ方などを現在の技術と比較をしていくと対象への興味は尽きませんでした．技術を持った編み手が確かに存在し，時空を超えて現在へと伝承されていることに感動すら覚えます．継続して，今後も古い作品にあたりたいと考えています．現在は，本学の博物館に保管されている編物雛形の調査・研究を少しずつ進めています．

19 世紀ヨーロッパの子ども服のレプリカ

アランセーターとベストのサンプル

関係論文，特許・著作物等の知財情報，連携の実績

・大塚有里，能澤慧子「レプリカ制作を通してみる 19 世紀ヨーロッパのこども服 - 毛糸編みのドレス -」服飾文化学会誌作品編，第 10 号，p.15-22, 2018

・大塚有里，幕内敦子「アランセーターの伝統模様からの考察 - 女子大生の思考とサンプル製作まで -」東京家政大学博物館紀要，第 22 集，p.103-111, 2017

社会連携・産学連携の可能性

キーワードに関する内容について，協力・連携が可能です．